

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	神奈川工科大学
-------------	-------	-----	---------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和5年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な資保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フローアップ対象年度	令和5年度	大学名	神奈川工科大学
------------	-------	-----	---------

②

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

③

選定された大学は、公費要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した

☒ チェック

④

文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない

☒ チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェック
- a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☐ チェック
- b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☐ チェック
- c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学は地域連携・貢献の重視を方針としており、2018年度には文部科学省研究ブランディング事業として地域と連携した「先進高齢者支援システムの開発と社会展開」が採択されている。この成果に基づき、本学は神奈川県、厚木市、厚木商工会議所と連携した地域連携協議会の発足を予定している。この協議会は単に研究による産業振興ばかりでなく大学を中心にした人材育成も大きな目標としている。応用化学生化学科では地域の化学、バイオ関連の企業と連携し実践バイオ開発論（仮称）の科目設置を新たに計画し、企業技術者を客員教員に招聘し実践的な手法を学ぶ内容を盛り込んでいく。	企業と連携したPBL教育の計画と実施体制の整備 1)初年次初級期教育(1年次、専門分野概論、必修科目) 企業(ソーシヤルデザイン研究所(株))と連携し、4月初頭に社会人基礎力の理解・専門分野の動機づけについてPBL教育活動も応用化学生化学科1年次生全員に実施した。 基礎専門教育(1年次、応用化学概論、必修科目)では、現在、同社による2回のPBL教育を実施した。他大学教員との連携では東京海洋大学と連携中である 2)企業連携キャリア教育 キャリア教育において、企業特別講座科目、産学連携プロジェクト科目を設置し、現在、連携企業について検討を進めている。 3)企業における課題解決型教育(3年次、選択科目) 「企業における課題と解決を学ぶ」科目において、課題解決型学修の設置を行っている。 連携企業：戸田建設(株)顧問及び糸井化工(有)顧問、(株)日本成功学会、栄光(株)、アイデンシャ(株)、TMI総合法律事務所、等	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☐ チェック
- a.入学希望者における科目の見直し
- ☒ チェック
- b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェック
- c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☐ チェック
- d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- ☒ チェック
- e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
応用化学生化学科の設置にあたり、高等学校訪問、オープンキャンパス、受験相談会や高等学校の教諭、塾・予備校向け説明会の開催などを通じて、様々な教育情報も高校生や保護者、高等学校等の教諭に対して広く周知を図ることとしている。そのうえで、近隣の高大連携協定校を中心とした高大連携講座（高校生を対象にした探究学習のための講座）を本学が設置し、高校生が大学の教育を体験できる場を用意している。また、入学希望者の実施においては、入試方法の多様化、評価尺度の多様化に努めることとし、入学希望者の受入方針を踏まえたうえで、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜により実施することとしている。各選抜では複数の入試方法を用意しており、学校推薦型選抜には女子学生の確保に向けた取組として「理工系女子対象公募制」を設置、一般選抜には留学生受入れ強化に向けた取組として「外国人留学生試験」を設置している。	b.女子学生の確保(志願者数増)に向けた取り組み ・2024年度入試学校推薦型選抜「理工系女子対象公募制」入試として公募したが受験者はなかったため、2025年度入試では総合型選抜に移行し、女性の入試特の門戸の拡充を図ることとし、これに合わせて、理工系女子特別奨学生制度を新設し、経済的支援も導入することとした。 ・2024年度より、リーダシップを取りつつ技術産業を誘因する理工系女性の育成を目的に、理工系女性教育プログラム(全6科目)を設置し、教育を開始した。2024年度の本プログラムの履修者は136名となった。 c.地域の初等中等教育段階の学校との連携 ・理工系女性教育プログラムにおいて、2年次に「理工系教育支援プロジェクト」科目を設置し、初等中等教育の理系教育の支援を地域の教育機関と連携して進める計画である。 ・2024年度JST「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に採択され、地域の女子小・中・高校生及び市政の教育機関も巻き込んだ理系進路選択支援を開始している。 e.留学生の受入れ強化に向けた取組 ・国際センター組織体制のもとに、留学生の受け入れ準備と今後の学修支援・学生生活支援を進めている。また、グローバル推進連絡会においても、留学生の学修支援について検討を行っている。	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	神奈川工科大学
-------------	-------	-----	---------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	神奈川工科大学
-------------	-------	-----	---------

⑫

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

⑬

選定された大学は、公費要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した

☒ チェック

⑭

文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない

☒ チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

- 【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）**
- ☒ チェック a. 企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☐ チェック b. 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☐ チェック c. 関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学は地域連携・貢献の重視を方針としており、2018年度には文部科学省研究ブランディング事業として地域と連携した「先進高齢者支援システムの開発と社会展開」が採択されている。この成果に基づき、本学は神奈川県、厚木市、厚木商工会議所と連携した地域連携協議会の発足を予定している。この協議会は単に研究による産業振興ばかりでなく大学を中心とした人材育成も大きな目標としている。応用化学生生物学では地域の化学、バイオ関連の企業と連携し実践バイオ開発論（仮称）の科目設置を新たに計画し、企業技術者を客員教員に招聘し実践的な手法を学ぶ内容を盛り込んでいく。	地域連携・貢献の取組実績、進捗状況 本学の令和6年度の地域連携・貢献活動は、地域連携イベント（市町村と連携による科学実験等）11件、公開講座8件、あつぎ協働大学5件、KAIT未来塾33件が実施された。『先進高齢者支援システムの開発と社会展開』については、以前に福祉に関わる学科が開設されていた背景もあることから、本学の技術の強みを生かした事業展開が進んでおり、地域連携貢献センターを代表として取りまとめられている。 地域連携として、本学科では特にKAIT未来塾では、厚木市に提供した顕微鏡を使った子供実験に対して、実験指導や分析機器のアフターケアを行っている。その他、小・中・高校生の保護者が含まれるPTA連合会において、理工系教育及び理工系大学進学に関する依頼講演を実施し、本学の紹介も兼ねて、小中高の教育の理解と理工系大学教育への発展の理解、形質につながる知識や技術の育成、等について講演を実施した（次年度も継続予定）。また、中高生が参加する市政や地域主催のイベント、講演会、等への本学教員の派遣や本学学生の協働参加を実施した。また、地域市民の脱炭素・グリーン環境保全活動「市民会議」にも参加して、地域との連携を図っている。	本学科の専門科目において、バイオ関連企業と連携した共同授業科目の展開については実務的な教育を進める上で重要と考えており、「企業における課題と解決を学ぶ」科目（3年次）もその一つであるが、今後も科目整備を継続的に検討していく方針である。

- 【B：多様な入学者の確保に向けた取組】**
- ☐ チェック a. 入学希望者における科目の見直し
- ☒ チェック b. 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェック c. 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☐ チェック d. 社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスティングへの対応）
- ☒ チェック e. 留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
応用化学生生物学の設置にあたり、高等学校訪問、オープンキャンパス、受験相談会や高等学校の教諭、塾・予備校向け説明会の開催などを通じて、様々な教育情報や高校生や保護者、高等学校等の教諭に対して広く周知を図ることとしている。そのうえで、近隣の高大連携協定校を中心とした高大連携講座（高校生を対象にした探究学習のための講座）を本学が設置し、高校生が大学の教育を体験できる場を用意していく。また、入学希望者の実施においては、入試方法の多様化、評価尺度の多様化に努めることとし、入学希望者の受け入れ方針を踏まえたうえで、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜により実施することとしている。各選抜では複数の入試方法を用意しており、学校推薦型選抜には女子学生の確保に向けた取組として「理工系女子対象公募制」を設置、一般選抜には留学生受け入れ強化に向けた取組として「外国人留学生試験」を設置している。	高大連携活動、小中高教育支援活動、入試対応、広報活動等の取組実績、進捗状況 1) オープンキャンパスでの対策、高校教員・高校生への対応 - 本学科の魅力や全体的に広報すべくオープンキャンパスの回数を前年度から増加し、3月～10月にはほぼ毎月1回計8回実施した。特に神奈川県内及び静岡県内からのオープンキャンパス動員を拡大すべく無料シャトルバスをキャンパス最寄駅（本厚木）、大船、平塚、橋本、三島、富士、静岡、掛川、浜松、等から運行した。オープンキャンパス参加動員数前年比151%（延べ3,292名）。 - 高校内進路ガイダンス及び進路相談会等の実施数を大幅に増やし高校生への直接広報を強化した。（11月現在：高校内進路ガイダンス460件（前年239件）、進学相談会167件（前年63件）、出前講義93件（前年31件）、高大連携講座51件（前年31件）） 2) 入試方式と経済的支援制度の改定 - 入試方式の改訂を行い、総合型選抜に理工系女子特別選抜方式を新設して当方式での入学者には経済的支援制度「理工系女子特別奨学金制度」を設けた（本方式の入学予定者全7名のうち応用化学生生物学入学予定者2名）。また受験機会を増やすべく、受験生の経済的サポートとして入学検定料減額を実施した。一般選抜では、共通テスト方式の出願期間を自己採点后に延長するよう昨年から変更した。 3) 女性進学者の増加対策 - 令和6年度よりスタートした理工系女性教育プログラムに関して、オープンキャンパスで説明会を実施し、ホームページでも広報を行った。 - 令和6年度から3年間の予定でJST（科学技術振興機構）「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に採択されたことを機に、市政や中学・高校の教育機関と連携した教育学習支援活動を展開している。女子中高生770名、保護者220名、高校教員95名への働きかけを目標値として設定し、12月末時点でほぼ達成した。 4) その他の広報活動 - 県内工業高校の年次総会において、化学系教員に対し、招待・基調講演を前年度に引き続き実施した。 - 高校の授業に参画して実験指導の実施、小中高の生徒への理工系分野及び大学進学の動機付け教育の実施、地域市政（公民館含む）との連携による子供理科実験教室の実施、学校教育期間と連携したPTA団体への理工系大学進学講演会の実施等、多様の活動を展開した。	令和6年度は、新学科体制がスタートし、学科教員は新規科目に多くの時間が費やされた中で、各教員による精力的な活動が展開された。現在、特に大きな課題は上がっていないが、細部に渡る点検と改善を進めていく方針である。

フォローアップ対象年度	令和 6 年度	大学名	神奈川工科大学
-------------	---------	-----	---------

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

区分	指摘事項等	対応状況
実施状況報告書留意事項（R 6 年度）	○R6年度入学定員充足率が0.50倍（工学部応用化学生物学科）となっている。入学定員未充足の改善に努めること。	本学科の取り組み (1)対策の取り組み事例を下記に示した。なお、様式1-2(2)でも関連した内容を記載している。 1)オープンキャンパスでの広報活動の強化、オープンキャンパスでイベントの実施 2)高校への出前講義実施数の増大、理科実験の実施数の強化、小学校での面白理科実験教室の実施 3)初等教育機関に関わるPTAへの講演(小中高や教育委員会との連携) 4)高校生の大学内研究室の見学ツアーの実施 5)地域連携活動の強化(イベントの実施) 6)理工系女子特別選抜方式入試の実施(総合型選抜入試に改善)と入学後の理工系女性教育プログラムの実施 7)女子中高生の理系進路選択支援プログラムによる中学・高校との連携授業・連携実験の実施 (2)学生確保の状況 令和6年年内入試（総合型選抜、学校推薦型選抜）が終了した時点では、当学科への12月末時点での入学予定者数は定員充足率42.1%（前年37.2%）と前年を約5%改善している。 令和6年度の入学者は72名(4月時点での辞退者除く)(充足率49.6%)、令和7年度の入学者は87名(4月時点での辞退者除く)(充足率60.0%)で前年度比1.21倍となり、入学者増加傾向が見られた。 (3)定員数見直しも含めた学部学科の見直し会議の発足と実施 令和6年10月に学部学科等見直し会議を学内組織として設置し、応用化学生物学科を含めた定員数見直しに関する検討も進めている(1回/月実施)。

大学名	神奈川工科大学
-----	---------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1148	1148	1148																
		入学者数	人	1098	891	1017																
	その他の学期	入学定員	人	***	***	***																
		入学者数	人	***	***	***																
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,148	1,148	1,148																
		入学者数(B)	人	1,098	891	1,017																
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.96	0.78	0.89																
	収容定員等	収容定員(C)	人	4592	4592	4592																
		編入学定員	人	0	0	0																
		在籍者数(D)	人	4503	4218	4083																
		編入学者数	人	1	1	0																
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.98	0.92	0.89																

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年	選定													
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		212,375	400,099	498,917	472,814	543,027	481,692	494,702												

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	457,277
本事業による助成金の額(F)	千円	250,000
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	463,527

特記事項

編入学定員については人数を定めず若干名としており、票中では0と記載している。